

日時：2016年5月27日（金）14時～14時30分

場所：総合教育研究棟A棟5階 矢田研究室

インタビュアー：有賀大尊（日本・アジア言語文化学3年）

インタビュー：矢田尚子先生

矢田先生の研究内容について

学生：本日は取材にご協力いただきありがとうございます。まず、矢田先生の研究内容について教えてください。

矢田：中国の古典文学ですが先秦兩漢という、秦の始皇帝より前の春秋・戦国時代から漢の時代の文学を扱っています。主に楚辞という文学の研究をしています。楚辞とは、中国の文学史で最初に出てくる『詩経』と並んで中国では有名で、戦国時代から後漢にかけて作られた詩のジャンルの一つなんですけど、そういったものを主として扱っています。

矢田先生のご経歴について

学生：では、次に経歴について質問していきたいと思います。

矢田：大阪外国語大学の中国語科を卒業しました。卒論で中国の神話について扱い、それが面白かったので、もっと勉強してみたいと思い早稲田の大学院に進みました。神話を勉強するには中国の古典を読まなければいけないのですが、高校時代は漢文が苦手でも現代中国語を勉強していました。そのため、大学院では大学で中国文学を勉強してきたほかの学生についていけないという恐れや、あまり合わないのではないかという思いがあり、修士は終えたのですが、そこでその道は一旦断念し、結婚したこともあったので、普通に実家の家業を手伝いながら主婦業をしていました。その後、子供が幼稚園児になったときに、もう一度中国文学にトライしてみようと思い、実家から通える三重大学の大学院に入りなおして、古典を読む訓練をしました。三重大学は修士課程までしかなかったのですが、その先生に東北大学の中国文学研究室を紹介していただき、そちらの博士課程に進みました。その後、そこで助手や助教をやった後、岩手県の盛岡大学文学部に就職して、この春に新潟大学にやってきました。

学生：ありがとうございます。ちなみに本格的に教えることになったのは新潟大学が二番目ですか？

矢田：助教の時にも中国語の授業と非常勤先で古典の授業は持っていましたが、古典を中心に教えるようになったのは二番目ですね。



講義内容について

学生：では、次に開講講義について教えてください。

矢田：中国文学では、古典と現代文の授業を持っています。古典では、中国古典詩を読む授業の他に、教員免許を取る学生のための、ちょっとかための文章を読む授業と、やわらかめの、妖怪や幽霊などの話を集めた六朝志怪小説というものを読む授業があります。また、中国の神話・伝説を読む授業もあります。現代文の方は、現代中国語で書かれたエッセイなどを読む授業を予定しています。それから、Gコードの中国語の授業も持っています。

学生：ありがとうございます。

矢田先生の学生時代について

学生：では、次にどんな学生時代を送ったか教えてください。

矢田：大阪外国語大学時代は今から思うととても国際色豊かで刺激的でしたね。語科ごとに分かれていて、私は中国語科だったのですが、英語やドイツ語、フランス語といったメジャーなものもあれば、アラビア語やスワヒリ語、インドネシア、フィリピン、スウェーデン、デンマークといったいろいろな国の言葉を勉強している学生がいたので、大きな教室を使う授業や部活、サークルではほかの国を勉強する学生と交流することもありましたし、大学の中にはいろいろな国からの留学生がいてインターナショナルな感じでしたね。最初に中国の神話に興味を持ったのは偶然で、大学1年生の時に一般教養の講義を取ると

きに友達に誘われて国史学（今で言う日本史学）の授業をとって見たら、それが日本古代史の授業で、日本の神話などの話が面白く、その授業を聞いているうちに神話や伝説っておもしろいなと思って、中国の神話ってどんなものだろうと調べたのがきっかけです。その授業を担当していた女性の先生がとても魅力的な人で、その先生への憧れもあって毎年、単位とは関係なくその授業に出続けていました。ほかの授業と重なってしまって出られないときは夜間の授業に参加していました。今、自分が教員になってみてわかりますが、非常に迷惑な学生だったと思います。そんな学生がいたら、毎年授業で同じ話ができないわけですから（笑）。その先生とはずっと交流があって、先生の退休記念論集に論文を書かせていただいたことは非常に光栄に思っています。

学生：ありがとうございます。これは個人的な質問なんですが、漢文を読むときのコツなどってありますか？

矢田：一番は数をこなすことですかね。思想的なものが関わっている文章は諸子百家の概説などを読んでそれぞれの思想の特徴を知っておくと、書かれている内容がつかみやすいと思います。でも、本当はそういうとっつきにくいものから入るよりも、小説や物語などを面白く読んで、慣れていくほうがいいと思います。

学生：そういった本は図書館にも置いてあるんですか？

矢田：あります。私も学生の時、図書館にある、原文と書き下し文と訳文が載っている本を使って勉強していました。

学生：自主勉強とかをするなら、そういった小説とかで勉強した方がいいんですか？

矢田：そうですね。でも、歴史が好きだったら『史記』や『三国志』などで勉強してもいいと思います。そういえば、高校の時に「山月記」ってやりませんでした？人が虎になる話なんですけど。

学生：やりました！

矢田：「山月記」はもともと中国の「人虎伝」という話を中島敦が翻案したものなんですが、中国には人が虎になる話が他にもたくさんあるんですよ。初期の頃のものは短くて単純な話が多いんですが、だんだんと「山月記」のような話へと発展していきます。そういった短い簡単な話から始めて、漢文に慣れていくといいと思います。簡単な短いお話を読んでいって自分で読むことができる面白いしうれしいと思うので、それをどんどん重ねてい

くといいいですね。

インタビューを終えて

普段では聞けないお話を聞けたのでとても勉強になるインタビューでした。また、苦手な漢文の勉強方法についても教えていただいたので今後の勉強に生かしていきたいと思います。

